4月

創刊１００号記念

げんきだより

兵庫教育大学
子育て支援ルーム
2023年度4月号 No100

やわらかな春の日差しとともに、かとうＧＥＮＫｉの新年度もはじまりました。このタイミングで、げんきだよりも創刊１００号を迎えることとなりました。これもかとうＧＥＮＫｉを支えてこられた先生方、楽しく利用してくださったみなさんのおかげです。これまで築いてきたつながりを大切に、今年度も利用者のみなさんと笑顔いっぱい歩んでいきたいと思います。

すくすく子育て

4月25日(火) 10:30～11:00
「子どものことばと発達」
兵庫教育大学教授　石野　秀明　先生
*春季休業のため、４月１３日(木)から受付を開始します。

【3月のご報告】

3月14日(火)
「タオルや毛布で
簡単ぬいぐるみづくり」
兵庫教育大学教授 淺海 真弓先生

手ぬぐいサイズのタオルと輪ゴムを使って簡単にぬいぐるみを作る方法を教えていただきました。作る過程で“タオルや布をさわることによって、心が安らぐオキシトシンというホルモンがでる”ことを教えていただきました。洗濯物をたたむ作業も布の感触を楽しめば同じ効果があるそうです。参加者からも「アイデア次第だと思いました。心が癒されました。」との感想がありました。慌ただしい生活の中でも、心を癒す時間を持つためのヒントをいただきました。

親子でわくわくデー

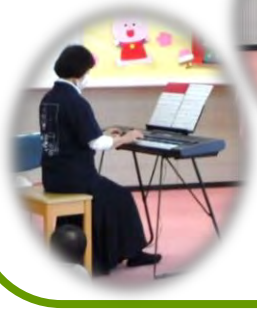
4月18日(火) 10:30～11:00
「リトミックで遊ぼう！-Ⅰ」
保科　直子　さん
*春季休業のため、４月１３日(木)から受付を開始します。

【3月のご報告】

3月16日(木)
「リトミックで遊ぼう！―XI」
保科　直子 さん

音楽に合わせて行うふれあいあそびからスタート！親子でふわっとリラックスしたやわらかい表情になりました。今回はシフォンのカラフルなスカーフを洗濯物に見立ててあそびました。スカーフを干しに来た子どもたちの目はキラキラして、大人が当たり前にしている仕事も子どもにとってはあそびの一つなのだと実感しました。感想からは、子どもたちの楽しむ様子が印象的だったとの声や、お子さんの成長を実感できたとの声がありました。

春のかとう GENKi まつりを開催しました！



３月９日(木)に、家族でわくわくデーの催しとして、スタッフによるささやかなおまつりを開催しました。ミニコンサートやペープサート、体操を楽しみました。お子さまがおうちに帰った後も、おまつりのことを話してくださる様子などたくさんの感想を寄せていただき、喜んでいただけたことをとてもうれしく思います。
これからもＧＥＮＫｉで過ごす時間が利用してくださるみなさんの楽しみや学びにつながるよう、スタッフ一同取り組んでいきます。
また一緒に楽しい時間を過ごしましょうね！

PICK UP げんきのあそび

この日の青いマットの上は大海原！魚釣りのおもちゃを運んで魚釣りを楽しんでいます。飛び石で囲んだ空間を楽しんだり、飛び石の上を歩いたり、子どもたちの発想で自由にあそんでいました。
子どもたちが豊かに遊ぶようすを、保護者のみなさんで支えている姿が印象的でした。

子育て ほっとコーナー

「明日学校行くの？」と幼稚園を卒園した日から毎日のように聞いてくる我が子。
ランドセルが届き、新学期用品を揃えるうちに、小学校に通うことへの期待と不安が高まってきたようです。
親の私も全く同じ気持ちです。初めての環境にわくわくする姿や、目に涙を浮かべて登校する姿も想像できます…。
なるべく子どもの気持ちに寄り添って、二人三脚で頑張りたいと思います！

○●○●○●○●○ 4月の予定 ○●○●○●○●○

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
春季休業のため、4月13日から開室します					1	2
3	4	5		7	8	9
10	11	12	13 開室日	14	15	16
17 開室日	18 親子でわくわくデー	19	20 開室日	21	22	23
24 開室日	25 すくすく子育て	26	27 開室日	28	29 昭和の日	30

【駐車場について】

お車で来られた方は、「やまくにプラザ西側駐車場」をご利用ください。
※黄色い線…軽自動車 ※白い線…普通自動車
満車の場合は、「かとう GENKi」までご連絡ください。対応させていただきます。

兵庫教育大学 子育て支援ルーム かとう GENKi

住　所：〒673-1421
加東市山国 2007-109 やまくにプラザ1F
開室日：月・火・木曜日(祝日を除く) 9時～14時
＊ ルームの利用は無料
対　象：主に未就園のお子様とその保護者
電話/FAX：(0795)40－2231
メール：res-genki@ml.hyogo-u.ac.jp
HP：https://www.hyogo-u.ac.jp/preken/genki/

げんきだより　創刊100号記念

インタビュー

兵庫教育大学　子育て支援ルーム「かとう GENKi」創立者

名須川　知子　教授

【主なご経歴】

1980～1981 年　お茶の水大学　文教育学部　教務技官（技官）
1981～1990 年　兵庫教育大学　学校教育学部　助手
1990～1992 年　兵庫教育大学　学校教育学部　講師
1992～2000 年　兵庫教育大学　学校教育学部　助教授
2000～2021 年　兵庫教育大学　大学院学校教育研究科　教授
2004～2008 年　兵庫教育大学　附属幼稚園長（兼任）
2016～2019 年　兵庫教育大学　理事・副学長（兼任）
2021 年～　　桃山学院教育大学　教授

皆様に支えられ、2023 年 4 月号をもってげんきだよりは創刊 100 号となりました。これからもこの場所を大切につないでいこうという思いをスタッフ一同新たにしたところです。この特別な機会に創立の経緯や「かとう GENKi」に込められた思いを名須川先生からお伺いしたいと思い、インタビューをさせていただきました。

―どうして子育て支援ルームを創立しようと思われたのでしょう。

当時子育て支援が注目され、他大学でも附属の子育て支援施設が創立されていたことを見聞きしていました。その時に大学側から「幼年教育として何か新しい企画がないか」とお話をいただいたのです。それで、「うちでもできるんじゃないか。」と思ったのがきっかけです。
また、附属幼稚園の総合こども園化の構想もでてくるなど、就学前教育の在り方を改めて考えていく時期にありました。附属幼稚園は 3 歳児からなので、就園前の 0～2 歳児をどのように支えるかを考えなければならなかった。それで“子育て支援ルーム”という構想に至りました。
そこに、大学院生の教育の場として兵庫教育大学独自の「子育て支援コーディネーター」という資格をとることができるカリキュラム構想を加えて、教育大学ならではの次世代育成の場にしたいと考えました。
更に、加東市も協力して下さり、地域子育て支援拠点事業としての開設にご尽力いただきました。
また、周辺の他大学と情報交換の場があり、たくさんのアドバイスを得ることができたことも大きな力になりました。
こうして、たくさんの方の力をお借りして、大学と地域が連携した子育て支援ルーム「かとうＧＥＮＫｉ」を立ち上げることができました。みなさんの協力がなければできなかったと今でも感謝しています。

――創設にあたって、ご苦労されたことや大切にされたことを教えてください。

ゼロからの準備だったこともあり、苦労はありましたが、幸運なことに「ひょうご地域子育て支援大学間連絡協議会 HUG café」に加えていただき、たくさんの情報共有ができたことが大きな力になりました。
また、ニュージーランドに視察に行きました。ニュージーランドは、第２次大戦後、保育園を作ることができない環境下で、親たちが共同保育をしながら子どもの成長を支え続け、その姿がとても参考になりました。その後、親たちの保育を大きく支えていたのが“ラーニングストーリー”というものでした。子どもたちの遊ぶ姿を撮影し、メッセージを加えて記録します。その記録が子どもの成長を客観視することにつながり、質の高い保育を作り上げていました。
このことを参考に、「かとうＧＥＮＫｉ」では“プレイストーリー”という名前で開発研究を行いました。まずはスタッフが記録を書くところから始め、当時私と２人のスタッフの３人で子どもたちの記録をしました。それを見た利用者のみなさんにその輪がどんどん広がっていきました。これは、当時の優秀なスタッフが頑張ってくれたからできたことでもあります。
このように、研究活動をしながら子育て支援ルームを運営できたことは、「かとうGENKi」の基礎を作るうえで大きなことでした。
創設から１年を過ぎたころに副学長になり、そのご縁で神戸新聞に月に一度“まぁるく子育て”という連載を持つことになりました。幼年教育の枠を超えて学内の様々な先生方が子育て支援にかかわるコラムを書いて下さいました。その後、神戸新聞社からこのコラムをまとめた本も出版しています。
（――興味のある方はぜひ受付でお声掛けください）

――就園前教育の場として、子育て支援施設がどうして大切なのか教えてください。

大切なことの１つに子どもは親とは別の人格であり、１人の人間として扱わなければならないということがあります。0～2歳の間は親との一体感が子どもたちを育てていきますが、２歳ごろから子どもたちはそれぞれ自分の人格を表現していきます。そして、就園を最初のきっかけとし、子どもたちはだんだん１人で歩いて行きます。
子どもと離れることを考えるのは寂しいことでもありますが、いつか巣立っていく姿を思いながら“いま”の子どもとの距離感をつかむことは子育てにおいては何より大切なことだと思います。このほどよい距離感を学ぶ場として子育て支援ルームの存在は大きいと考えています。

――最後に今子育て中の利用者の皆様へメッセージをお願いします。

“楽しむ”って大事ですよ。「これは面白いかも」と、心がわくわくドキドキすることを意識してほしいなと思います。子どもはきっとその力を与えてくれます。
子どもと向き合う元気がなくなったとき、疲れているときは“ぼーっ”と子どもを見るだけでもいいと思います。そうやって子どものしぐさを見ているうちにふっとかわいいなと思う気持ちが芽生えてきますよ。気負わないでいてくださいね。
子どもは、親がいないと生きていけない“寄る辺なき存在”ですが、その期間を過ごすことができるのはほんのひと時です。そして、それに寄り添う親もまた、子どもにとっては唯一無二の存在です。親として選ばれたあなたもまた特別な存在なのです。それも忘れないでいてほしいと願っています。

――私たちも、“楽しむ”気持ちを大切に利用者の皆様と時を重ねていきたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。